

## &lt; 平成16年3月期 決算について &gt;

本日開催の取締役会において、平成16年3月期の決算(平成15年4月～平成16年3月)が確定いたしましたので、ご報告いたします。

## 1. [連結]決算の概要

## (1) 連結経営成績

当期の連結決算は、売上高は1兆 9,163億円と前期比100.7%、135億円の増収となりました。営業利益は252億円と前期比11億円の増益、経常利益は195億円となり前期比7億円の増益となりました。また、当期純利益は82億円となり前期比48億円の増益となりました。なお、各セグメントの営業利益の状況は以下の通りです。

## [石油事業]

当期における石油製品需要は、ガソリンやC重油については堅調に推移しましたが、暖冬など国内需要減退の影響を受け灯油・軽油及びA重油は減少しました。また、製品市況は原油価格の上昇傾向の中、コスト転嫁の浸透に努めたことにより昨年に比べ改善されたものの、総じて原油価格の変動に対応した市況を形成するまでには至りませんでした。石油事業の経営成績としては、売上高は販売価格の上昇などにより、1兆8,631億円となりました。営業利益では、平成15年度を初年度とした「新中期経営計画」に取り組み、その成果として価値創造及び合理化が達成でき収益改善に寄与しました。また、製品市況の状況が昨年に比べ改善したことなど増益要因がありましたものの、たな卸資産の総平均法による在庫評価の影響で、売上原価を押し上げたことによる減益要因があったことにより、営業利益は180億円となりました。

## [石油開発事業]

石油開発事業においては、原油生産の操業の安定化・高度化に加え自主開発原油比率向上に向け、原油生産量の維持・拡大に努めており、当期の経営成績としては、売上高 316億円、営業利益は75億円となりました。

## [その他の事業]

不動産施設の売買・賃貸及び石油関連施設の工事・リース並びに保険等の事業においては、各事業とも合理化・効率化に努めたことにより、売上高は667億円、営業利益は7億円となりました。

## (2) 連結財政状態

当期末における総資産は、1兆 2,601億円となり、前期末に比べ134億円増加しております。これは、休日の影響(申告日)で当期末の揮発油税・石油税等の支払が翌期にずれ込んだことで手元資金が増加したことや、売掛金・未収入金などの売掛債権が減少したことによるものです。なお、当期のキャッシュ・フローは、営業活動は1,018億円のプラスとなりました。投資活動は固定資産取得に伴う支出により327億円のマイナスとなりました。財務活動は有利子負債の削減に努め77億円のマイナスとなりました。当期末の現金等残高は前期末比607億円増の1,045億円となりました。

## (3) 平成16年3月期 連結決算の概要 [連結]

【連結経営成績】	当 期	前 期	増 減
売 上 高	1兆 9,163億円	1兆 9,028億円	135億円 ( 0.7%)
営 業 利 益	25,245百万円	24,166百万円	1,079百万円 ( 4.5%)
経 常 利 益	19,472百万円	18,800百万円	672百万円 ( 3.6%)
当 期 純 利 益	8,178百万円	3,425百万円	4,753百万円 ( 138.7%)

【連結財政状態】	当期末	前期末	増 減
総 資 産	1兆 2,601億円	1兆 2,467億円	134億円
株 主 資 本	2,048億円	1,936億円	112億円
株 主 資 本 比 率	16.3%	15.5%	0.8%
有 利 子 負 債 額	5,593億円	5,626億円	33億円
有 利 子 負 債 比 率	44.4%	45.1%	0.7%

【連結キャッシュ・フロー】	当 期	前 期
営 業 活 動 C F	1,018億円	270億円
投 資 活 動 C F	327億円	128億円
財 務 活 動 C F	77億円	101億円
現 金 等 期 末 残 高	1,045億円	438億円